

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	(1) 各教育活動に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。 (2) 生徒が在学中に1回以上インターンシップに参加している。 (3) 工業の特長を生かしたもののづくりに積極的に取り組み、実習内容に満足している生徒が70%以上である。 (4) 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	・学校行事やインターンシップ、資格取得などの本校全日制の特色ある教育活動について、各部で見直しや検討を行い、内容の充実・改善を進める。 ・インターンシップ（短期・長期）を実施する。 ・生徒が成果を整理しまとめるなどの事後指導を行う。 ・実習では、ものづくりが楽しくなる工夫を行い、生徒が積極的に参加できるようにする。 ・各科研究部等では、専門性を深めるため積極的な課外活動に取り組む。 ・行事を充実させ、職員と生徒で運営できるようにする。 ・OBや社会人による講演を行う。 ・前工生であるという帰属意識とプライドを醸成する。	A	A	A	生徒アンケートの自由記述では、本校で取得できる資格や校内の設備などの案内を充実してほしいという意見がみられた。	・インターンシップは多くの指導者が効果を認める教育方法であり、さらなる積極的な展開を望む。参加生徒の感想を聞く機会として、各科代表の発表会開催なども検討してほしい。 ・ものづくりコンテスト等の入賞実績は、多くの生徒に感動と自信を与えており、高く評価する。「高い技術が身につく前工」を中学生へより一層アピールし、志願者増に繋げることを期待する。 ・生徒の80%が満足し、資格取得に協力して取り組む環境を評価する。一方で、満足感や興味を十分に持てていない層に対しては、資格取得の推進を通じてやりがいを引き出し、取得率トップを目指すサポート体制を構築してほしい。
	2 資格取得に積極的に取り組んでいますか。	(5) 生徒の資格指導に対する満足度は、90%以上である。	・資格・検定・講習会の紹介により受験を促す。 ・補習指導を各科・各係で実施する。 ・家庭学習や放課後の時間を有効活用する指導を行う。	A	A	A	学校評価アンケートの自由記述をみると、少数ではあるが生徒は「科によって取得できる資格が少ない」保護者は「資格取得が科によってまちまち」という意見があるので、全科でうまく協力をして専門以外の資格に挑戦できる態勢を整えなければならない。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	(6) 授業に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・授業評価アンケートを実施し、生徒、保護者のニーズを把握することにより、授業の充実を図る。	A	A	A	授業・学習に対する満足度が低い生徒が15.4%いることが生徒アンケートで分かった。授業が難しいと感じている生徒がいるだけでなく、逆に内容が容易で満足していない生徒もいることが分かった。	・基本に忠実な学科・実習の指導を高く評価し、引き続き本県を支える技術者の育成を期待する。 ・満足度80%を維持しつつ、残り15.4%の生徒の本音に寄り添った個別アプローチを強化してほしい。 ・補習体制において、教員による指導だけでなく生徒同士の学び合いや交流も促進することを望む。 ・成績不振者への継続的な補習により、基礎基本の定着と全生徒の履修科目修得を徹底してほしい。
	4 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	(7) 欠点保持者数は各学期で全校の10%以下である。	・成績不振者に対し補習授業を行う。 ・履修科目を修得させる努力をさせる。 ・基礎、基本の知識が定着する授業を展開する。	A	A	A	欠点保持者数は全校の10%以下になっている。次年度についても成績不振者に対し補習授業を行うなど、履修科目を修得させる努力を継続して行い、基礎、基本の知識を定着させたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5 組織的・継続的な指導を行っていますか。	(8) 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に1～2回程度行っている。	・職員会議、成績会議、定例学年会、各科と担任で情報交換する。 ・各会議等で情報交換した内容を欠席者が後日閲覧できるようにするなど、関係者全員が情報共有できるようにする。	A	A	A	学習について取り組みない生徒について関係者で相談し、早期の対策をいかに講じるかが今後の課題である（教員アンケートの自由記述に基づく）。	・部活動をコミュニケーション能力向上の場とする指導を評価する。加入率60%という現状をふまえて、活動機会の醸成や、加入状況と進路の相関分析にも努めてほしい。 ・通学途中のあいさつが励行されており、生徒の健全な成長を実感する。校内のあいさつ運動や行事を通じた人間関係の構築などを評価する。 ・生徒・保護者の高い評価を維持しつつ、SNSの利用法や危険性に関する指導、ネットリテラシーの向上にはより一層注力してほしい。 ・いじめの未然防止や不安を抱える生徒の早期発見・相談対応については、引き続き適切な対応の継続を期待する。
	6 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	(9) 学校はいじめの未然防止や早期発見に向けた取組を積極的に各学期1回以上は行っている。 (10) 学校は、「学校いじめ防止基本方針」について、1回以上生徒に説明している。 (11) 学校は、生徒がSNS（ツイッターやラインなど）やインターネットの危険性や正しい利用方法などについて、1回以上は学ぶ機会をつくっている。	・学校生活アンケートや面談週間などで、悩みや不安を学校職員に伝える機会を設け、未然防止や早期発見に結びつける。 ・生徒が中心となって、あいさつ運動を展開する。 ・年度当初に、学年集會や全校集會で「学校いじめ防止基本方針」を説明し、いじめは絶対にあってはならないことを伝えていく。 ・「ケータイ安全教室」「サイバー犯罪防止教室」「いじめ防止フォーラム発表会」「こころの教育授業」を実施し、SNSによるトラブルやSNSに頼らない人間関係の構築に向け指導を行う。	A	—	A	学期に1回の学校生活アンケートや長期休業明けのころの健康観察を通して、生徒の悩みの早期発見・対応に役立てた。また、あいさつ運動を生徒を中心に実施し、意欲的に学校生活を送れるような雰囲気作りを生徒につくることができた。 1～3年まで1学期の始業式・入学式後に学校生活全般の話をする際に、いじめの定義やSNSのいじめ防止基本方針の説明を生徒指導部で行い、いじめ防止の意識を植え付けた。	
	7 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	(12) 家庭と連携をとりながら、生徒の怠慢による欠席・遅刻をなくし、1日平均遅刻者数は前年度の98%以下である。 (13) 治療勧告を受けた生徒のうち、早期に専門医による治療や検査の必要のある生徒の受診率は80%以上である。	・進路指導も見据えた指導を行う。 ・遅刻カード（イエローカード）の記入を徹底する。 ・欠席遅刻が多くなりそうな生徒には、家庭へ連絡し早期改善に努める。 ・基本的生活習慣を確立させる。 ・検診結果により治療が必要な生徒に治療勧告を行う。 ・担任、養護教諭等で指導機会を増やす。 ・保健だよりを発行し、保健意識の啓発を図る。	A	A	A	毎学期1回あいさつ運動を生徒が行う事で、基本的生活習慣の確立を呼びかけた。遅刻カードの記入の際、指導を行い改善させた。家庭への連絡も早期に担任が行い再発防止に努めた。 高校生以下の受診料無償化により、受診率も改善されている。次年度以降も保護者の協力を得て、生徒が主体的に健康的な学校生活を送れるようにしていきたい。	
	8 部活動に積極的に取り組んでいますか。	(14) 部活動に加入している生徒は60%以上である。	・新入生歓迎会（部活動ガイダンス）により、新入生への部活動加入を促す。 ・部活動の諸調整を行い活動の活性化を図る。	A	—	A	部活動を行うことが、自己肯定感や自己有用感を身につけ、人とのコミュニケーション力を高めることに繋がることを伝える。その結果、部活動の加入率を上げる。また、部活動で頑張っている生徒を応援する雰囲気学校全体で作る。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	9 計画的な指導を行っていますか。	(15) 進路関係の行事やガイダンスを年5回以上実施する。 (16) 学校からの進路に関する情報について満足している保護者が80%以上である。	・先輩と語る会や3年生と語る会を実施する。 ・進路希望調査を実施する。（年2回） ・進路講話や進路ガイダンスを計画的に実施する。 ・校内公務員模試を実施する。 ・各科との協力のもと、企業見学やインターンシップを実施する。 ・進路のしおりを作成し配布する。 ・保護者対象の進路説明会を実施する。 ・Webページを活用し、進路行事や進路状況を載せる。 ・2者及び3者面談を実施し、進路希望の確認を行う。 ・進路情報を提供し、学級担任と協力して生徒を指導する。	A	—	A	進学、就職、公務員希望など生徒一人一人の多様化する進路希望について、各種の進路ガイダンスを実施できた。次年度についても、生徒の進路希望を踏まえ一人一人に寄り添った丁寧な進路指導に心がけ、学級担任を中心に生徒の第一志望の進路実現に努める。 生徒や保護者が必要な情報を得られるように配慮し、進路講話や保護者講演会などもICT機器を活用し、具体的に進路スケジュールなど説明できた。次年度に向けて、保護者や地域社会の要望なども取り入れながら、進路指導・キャリア教育の推進および精選に努める。	
	10 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	(17) 進路について真剣に考え、その実現のために努力している生徒が70%以上である。	・進路だよりを定期的に発行する。 ・進路のしおりを作成し、全生徒に配布する。 ・進路相談室の充実を図る。 ・図書館に進路コーナーを設置し、生徒への情報提供を行う。	A	A	A	将来を考えた学習活動を行い、主体的に進路選択し、自己実現を図っていくことができるように進路指導を進めてきた。特に、全校の生徒や保護者、本校職員に毎月の進路だよりを発行できた。次年度についても、生徒の能力や資質を伸ばせるように計画的・体系的な進路指導を実践する。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	11 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	(18) 学校の教育活動を人々に理解してもらうために学校公開を年3回実施している。 (19) 保護者全員を対象とした学級担任による面談を年1回以上実施している。 (20) PTA総会、授業参観、学級懇談会や学年保護者会等に参加している保護者が90%以上である。 (21) 学校からの情報発信に満足している生徒、保護者がそれぞれ80%以上である。	・オープンスクール、学校公開を実施する。 ・参加者にアンケートを行い、その結果を次年度に反映できるようにする。 ・全校一斉の3者面談週間を設ける。 ・PTA総会、授業参観、学級懇談会や学年保護者会を実施する。 ・保護者への連絡を周知徹底するため、案内文書に加えメールでの案内も送る。 ・家庭との連絡を密にする。（担任） ・課題研究発表会等では、保護者に案内を送る。 ・前工だよりを年3回発行し、生徒の活動の様子をきめ細やかにかつ積極的に地域社会へ発信する。 ・保護者への連絡を密にして、必要事項の周知を図り、本校の教育活動を伝える。	—	—	A	学校説明会などの学校公開自体は毎年行っているため、今後は参加者からの意見や評価も入られればと考える。 全校一斉の3者面談を毎年実施しているため、今後は面談に対する生徒や保護者からの評価も入られればと考える。	・年3回発行の「前工だより」は学外者にとって貴重な情報源であり、今後の継続を強く期待する。 ・地域や行政と連携した取り組みを充実させ、生徒の社会参加をさらに促進してほしい。 ・生徒自身のやるべきことが明確になれば、心に余裕が生まれ、人として開かれた付き合いができるようになる。早期の進路決定をきめ、学校側の取り組みを評価したい。 ・クラス通信は有意義だが、生徒を介した周知には限界がある。ホームページ等を活用し、資格合格者数や部活動報告など、クラスを身近に感じられる速やかな情報発信に努めてほしい。
	12 ICTを活用した指導を行っていますか。	(22) 学習用端末やICT機器を活用した指導を教員が行い、ICT機器を積極的に学習活動に利用している生徒が80%以上である。	・授業でのICT機器の効果的な活用を学校全体で推進する。 ・ICT機器を活用した対話的な活動に向けた授業の工夫に取り組む。	A	A	A	ICT機器を学習活動に活用している生徒が多い一方で、自宅学習などで利用している姿をみることがないという回答がみられた（保護者アンケートに基づく）。	
	13 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	(23) ICTを活用することで、分掌業務などの改善に努めている教員が80%以上である。	・各種調査や連絡などでクラスルームやフォームを活用し、資料や情報のデータをデータベース化する。また、ICTの活用事例を校内で情報共有する。	A	—	A	ICT活用が教員に定着しているため、今後は各教員の活用事例を科内・校内で情報共有できればと考える。	
	VI 教育デジタル化に努めていますか。							